

# かんさい

高齢者向けに開かれたスマートフォン講習会。同じ目線で教えられるよう講師も高齢者が務める(大阪府富田林市)＝中原正純撮影



「1、2回では難しいかも知れませんが、楽しくなるので使い方をぜひ覚えてください」

大阪府富田林市の市立総合福祉会館で7月、山本恵英さん(70)がスマートフォンを手に、同世代の高齢者7人にスマホの操作方法を教えていた。

市社会福祉協議会が60歳以上の高齢者を対象に、毎年行っているスマホの講習会。同協議会から委託を受けているNPO法人「きんきょうえん」(富田林市)は、受講者と同じ目線で教えられるとして、同世代の講師を派遣している。

同法人はパソコンやスマホ教室などを展開しており、デジタルの活用を地域で広めていくことができる高齢者の人材も必要」として、2016年度に講座を開催。スマホの使い方を教える講師ボランティアを養成した。今も4人が現役で、山本さんはそ

## 講師は同世代

様々な行政手続きのオンライン化などが進む中、国民のデジタルデバイス(情報格差)が課題になっている。70歳以上の約6割がスマートフォンなどを利用していないという調査結果もあり、国も今年から高齢者支援に乗り出した。国に先駆けて格差解消に向けて取り組んできたNPO法人の活動をのぞいた。(社会部 小栗靖彦)

講習会は全2回。今回はスマホ操作の基本を伝えており、山本さんはこの日、すぐに役立つ地図サービス「グーグルマップ」や無料通信アプリ「LINE」の使い方、カメラの利用方法を紹介していた。

画面を拡大して見やすくするため、画面上に2本の指先を当てて広げる「ピンチアウト」などの操作を交えたり、画面が先に進まないといった参加者の質問に答えながら120分の講習会を進めた。

参加した主婦の西野直美さん(75)は「ガラケー」からスマホへの切り替えを予定しており、「画面タッチが難しくかったが楽しく受講できた。スマホでLINEやユーチューブを楽しみたい」と笑顔を見せた。



## スマホ使ってみて!

### 軽い気持ちで

講師を務めた山本さんも5年前までは、スマホで電話やメールぐらいしか使っていなかった。軽い気持ちで参加した講習会で、スマホの使い方を習得。以降は講習会の講師として壇上に立ち、新型コロナウイルス禍では知人らとウェブ会議システム「Zoom(ズーム)」を使ったオンライン飲み会を楽しむなど、デジタルライフを満喫している。

コロナのワクチン接種の予約方法を巡っては、インターネットの専用サイトやLINEが活用された。山本さんはスマホでスムーズに予約できたといい、「特に自粛期間中は知人らとLINEで気軽にやり取りできるし、役立っている。便利さを知ってほしい」と話す。

総務省は今年6月から高齢者らを対象とした無料講習会を始め、同法人も事業団体の一つに選ばれた。10月以降、国の事業として講習を担当する。

山本さんと講師で「同期」の上田金五さん(70)は「スマホが使えれば、より生活が豊かになる。堅苦しく考えず、まずは使ってみてほしい」と話している。

## 国も100万人目標講習会

デジタルデバイス(情報格差)を解消しようと、総務省は、高齢者のデジタル活用を支援する無料の講習会を始めている。今年度は6月から、全国約2300か所で行われ、実施する計画で、2025年度までの5

年間で延べ1000万人の参加を目指している。

講習会(1講座60分以上)では、携帯電話会社や研修を受けた学生らが「デジタル活用支援員」として講師を務める。店舗や公民館などで、メールやSNS、アプリのインストール方法やキャッシュレス決済アプリの使い方などを教える。

総務省がこうした事業に乗り出す背景には、デジタル機器に不慣れた高齢者が多数に上る現状がある。オンラインで可能な行政手続きなどが増える中、新型コロナウイルスのワクチン接種予約では電話を使う高齢者も多かったが、長時間つながらないなど各地で混乱が相次いだ。

### スマホやタブレットを利用しているか



### 何が利用につながるか(複数回答)



### 利用していない理由(複数回答)



内閣府の昨秋の調査では、スマホやタブレットを「利用していない」「ほとんど利用していない」と答えたのは、60歳代が計25.7%、70歳以上が計57.9%に上った。スマホなどが利用できない高齢者は約2000万人いると推計される。スマホなどを利用していない理由(複数回答)について、自分の生活には必要ないと思っているからとの答えが60歳代(43%)、70歳以上(52.3%)ともトップ。「どのよう」に使うかはわからないから」との回答が60歳代(39.5%)、70歳以上(42.4%)と続く。

政府は、高齢者らを支援する中で、行政手続きのオンライン化などの「デジタル化」をさらに推進したい考えで、武田総務相は「社会のデジタル化が進められる中、格差の解消が重要な政策課題。デジタル活用支援を国民運動として盛り上げていく」としている。

「100年LIFE」は第1・3・5木曜日に掲載します。